

ゼロカーボン長野プログラム 2022

取組に至る背景・事業の目的

環境保全や都市緑化に取り組むボランティアや市民団体が行政機関と協働しながら普及啓発活動を実践してきた。2050 ゼロカーボンを実践していくため、関連する市民団体等はもとより、さらにより幅広い市民、団体・企業へと知名度を高め浸透を図っていくため実施する。

事業内容

ゼロカーボン社会の構築及び地球温暖化防止活動の普及啓発活動のため、5つのプログラムを実施。

1. グリーンインフラ体験活動 (6/16~8/10 の56日間)
長野駅善光寺口駅前広場で緑化スペースを設置
2. リサイクルラボ (7/16~7/18 の3日間)
リサイクルによるゼロカーボンのワークショップ
3. ゼロカーボンさみっと 2022 (7/29~7/31 の3日間)
ゼロカーボンの体験、展示等の普及啓発イベント
4. グリーンインフラフォーラム
・オンラインシンポジウムの開催とWebでの配信
・5会場でのパネル展
5. エコマラソン長野 2022 (9/17~9/18 の2日間)



【グリーンインフラ体験コーナーの様子】

事業効果

- ①善光寺御開帳から盛夏までの間、長野駅前広場で緑化スペースを提供することで、駅利用者、来訪者にグリーンインフラを知ってもらう機会となった。芝生にすることで表面温度が12℃下がる効果が実証できた。
- ②親子参加でのワークショップを通じて、楽しみながらゼロカーボンへの理解を深める機会となった。クイズなどを取り入れ、幅広い年齢層への浸透を図ることができた。
- ③小学生・中学生とご家族など幅広い年齢層への普及啓発活動ができた。ライブ配信・収録配信を取り入れたWebの活用で事業効果を増大できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

ゼロカーボン社会の構築および地球温暖化防止活動の普及啓発のため、都市緑化、リサイクル、省エネ・再エネのテーマごとプログラムを実施することができた。オンライン配信なども積極的に活用し波及効果を高めた。引き続きこのプログラムの内容を充実させることで、ゼロカーボン社会に向けた普及啓発活動の発展が期待できる。

また、所期の目的であった行政機関や関係団体、企業、市民有志などさまざまな主体との連携の機会が継続的に実現できたことから、今後もこうしたネットワークのプラットフォーム機能を継続、拡大していきたい。

【選定のポイント】

長野駅前広場での「グリーンインフラ体験」や、子ども向けのリサイクルラボ、知見者がディスカッションするシンポジウムの開催まで、幅広い世代やレベルに対して広く普及を行い、長野市内におけるゼロカーボンの取組の普及に大きく寄与した。また、グリーンインフラ体験コーナーでは、長野市・長野高専と連携して、芝生の効果を検証し、芝生が石畳より約12℃低く、緑化で温暖化防止につながることを実証し、今後も更なる取組により一層ゼロカーボンの普及を推進することが期待できる事業となった。

団体名 特定非営利活動法人CO2バンク推進機構 連絡先 理事長 宮入 賢一郎 ホームページ https://www.co2bank.org/pr-zero/zerocarbon.htm メールアドレス co2bank@nifty.com	事業タイプ ソフト事業 事業費 4,875,805円 支援金額 3,900,000円
---	--

ながの地域まるごとキャンパス事業

取組に至る背景・事業の目的

15～24歳の転出超過の要因として、高校等に進学すると地域との接点が少なくなり、地域の構成員としての意識が醸成されにくいまま、進学・就職をきっかけに県外に出て行ってしまいう流れができてしまうと考えられる。そのためには、高校生・専門学校生・大学生等のときから地域の一員として地域活動に参加し、地域を知り、学校や家族以外の人間関係をつくり、人や自然の魅力を感じ長野への愛着を醸成することが必要であるため、地元企業・団体等とともに活動・参加できる機会を創ることが未来の地域づくりにつながると考え実施する。

事業内容

長野圏域をまるごと「キャンパス」ととらえ、市民活動団体や企業などが提案する地域活動プログラムに学生が参画する。学生は多数あるプログラムの中から選び、3日以上活動する。これらの活動では、学生の主体性を重んじており、活動を通じて、学生は地域にある人やモノの魅力を再発見し、自分も地域の一員であるという主体性を育むことで、地域への愛着醸成を目指す。

実施期間：2022年4月～2023年3月

参加人数：150人（大学生16人、高校生134人）

プログラム数：35



【活動先で農作業をする】

事業効果

○活動後のアンケート結果

- ・地域活動を通して、地域のヒト・コト・モノの魅力を発見できた、社会課題に関心をもつことができたと答える学生が多くいた。
- ・今後も地域活動に参加したいという意思を持ったという学生が8割を占めた。

○活動終了後も、継続して団体の活動に参加し、自分が発案し企画運営する学生もいた。地域の将来を担う人材の育成につながっている。

○こうした取組が認められ、令和5年度から長野市の事業になることが内定している。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

参加学生たちからは活動を通じて「地域の課題に関心をもった」「魅力に気づくことができた」などの感想があり、一定の成果があった。一方、その学生個々が感じたことを、外部に伝える機会があまりなかったことは反省点でもある。学生たちが自らの言葉で地域の課題や魅力、地域活動の楽しさを伝えることができれば、本事業を通じて若い世代の地域への関心・参画が期待できるのではないかと。次年度以降は、参加学生が発信・運営にも携われる機会を増やしていくことにも注力したいと考える。

【選定のポイント】

地域で活動を行う様々な団体や企業と社会課題に関心を持つ学生をつなげ、若者が主体的に地域活動に取り組む機会を創出することで、郷土愛醸成や学びの深化、UIJターンの推進等に大きく寄与した。その後、長野市の委託事業として継続されているため、発展的に更なる広がりのある取組につながる事業となった。

団体名	ながの地域まるごとキャンパス実行委員会事務局	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	戸井田 由奈	事業費	916,467円
メールアドレス	npo@nagano-shimin.net	支援金額	617,000円

北信地域における里親委託等推進事業

取組に至る背景・事業の目的

様々な事業により親元で生活することが難しい子ども達はできるだけ家庭に近い環境で生活することが望ましいとされており、県も「長野県家庭養育推進計画」を策定し里親委託を進めている。この里親制度が広く浸透することを目標に活動しているが、①コロナ禍の感染状況によっては集合型での制度説明が難しい、②現状の制度説明会ではターゲットが「制度にある程度興味がある人」と限定的であることが課題であるため、オンラインを取り入れたハイブリット形式での制度説明会の開催やフリーペーパーなどを活用し広く制度に興味をもってもらえるような活動を推進する。

事業内容

- 里親制度説明会を中心にオンライン環境を整え、会場に足を運ばなくても参加してもらえるようにする。
- 興味深度別に里親制度に触れる機会を作る。すでに興味がある方にはわかりやすい制度説明会を、興味を持つまでに至らない方には親子で楽しめるイベントを開催し、その中で昨年度制作した動画を上映することで、里親制度を知るきっかけを作る。
- 若者や地域住民、公的機関の職員等様々な方に制度説明をする機会を作り、制度が広く世間に知られるよう働きかける。
- 地元フリーペーパーや回覧板などで説明会やイベントの告知を行い、より多くの方に制度を知るきっかけを作る。



【キッズヨガ風景】

事業効果

- オンライン環境が整備されたことで、会場に来ることが難しい希望者にも参加してもらうことができた。多くの人に参加してもらい、児童相談所に寄せられた登録等の相談件数の約3割が当会の活動経路となっている。
- 長野市内の各大学で制度説明をする機会を得て多くの学生に聞いてもらうことができた。これにより制度理解の他に予期せぬ妊娠などの際にも選択肢が広がることを知ってもらえた。また市役所職員にも研修したことにより窓口対応等でも役立っている。
- 地元フリーペーパーや回覧板を活用してイベントや制度説明会の告知をすることで、多くの方に制度があるということを知ってもらえることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 今年度は昨年度制作した動画を大いに活用しながら興味深度に合わせて里親制度に触れてもらう説明会やイベントを行ってきた。またコロナ禍にできるだけ左右されず、参加者が可能な環境で制度を理解してもらうこと、できるだけ多くの方に里親制度があるということを知ってもらうこともできた。今年度の活動は工夫した成果が種々のアンケートや児童相談所につながった件数などで出ているので、今後はその広報の方法を一層工夫し、より広く世間に里親制度が広がることを目標としたい。
- 今年度の活動に更なる工夫を加えながら今年度とは違った手法で広報啓発活動をするとともに、既に制度に興味がある方に向け、それをより深めてもらうにはどのような働きかけが必要かを熟慮し、今後の計画を立てていきたいと考えている。

【選定のポイント】
 参加者を引き付ける企画を盛り込んだ里親カフェの開催、オンラインやDVDの活用など通じて、地域住民や各団体等が制度について学ぶ機会を創出し、制度を知らなかった地域住民の認知向上や当事者間の連携強化に寄与した事業となった。

団体名 長野県里親支援専門相談員 北信地区連絡会 連絡先 事務局 小池 智江 (児童養護施設 三帰寮) メールアドレス sanki-satooya@email.plala.or.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 410,266円 支援金額 328,000円
---	--